

公益財団法人 日本文学振興会

平成31年度／令和元年度事業計画

当法人の本年度に企画する事業は、定款第3条の「文芸の向上顕揚を図る」を目的として、第4条に基づく下記五賞の選考と授賞を行う。

松本清張賞 第26回（平成31年度） 平成31年4月中

人間性を透視し、社会の暗部を凝視して、名作を数多く生み出した故松本清張氏の業績を記念し、長編小説の分野での、優れた作品の執筆者を選出し、記念品及び賞金を贈る。

対象はジャンルを問わぬエンターテインメント小説。原稿枚数(400字換算)300枚から600枚まで。日本文学振興会による予備選考を経て、4月に選考委員会を開き、その結果は「オール讀物」6月号に発表される。正賞は時計、副賞は500万円。選考委員は、角田光代、京極夏彦、中島京子、東山彰良、三浦しをんの各氏。6月中に大宅壮一ノンフィクション賞と合同で贈呈式及び披露を行う。

大宅壮一ノンフィクション賞 第50回（令和元年度）

令和元年5月中

故大宅壮一氏の言論活動を記念し、ノンフィクション界のさらなる振興を目的として、斬新且つ創造的な作品を著した著者を選出し、賞金及び記念品を贈る。

対象は個人の署名作品とし、毎年1月1日より12月31日までに発行されたノンフィクション作品(ルポルタージュ、手記等、小説以外の作品)。日本文学振興会による予備選考を経て4月に候補作を発表し、5月に選考会を開き、その結果は「文藝春秋」7月号に発表される。正賞は100万円、副賞は日本航空国際線往復航空券。選考委員は、梯久美子、後藤正治、佐藤優、出口治明、森健の各氏。6月中に松本清張賞と合同で贈呈式及び披露を行う。

芥川龍之介賞 第161回 (令和元年度上半期) 令和元年7月中

第162回 (令和元年度下半期) 令和2年1月中

故芥川龍之介の文業を記念し、日本文学に新風を送る作品を著した有為の新人を選出し、記念品及び賞金を贈る。そして、直木三十五賞と共にその贈呈式及び披露を行う。

対象は雑誌に発表された純文学作品(原則として原稿枚数200枚前後以下の中短編)。12月1日～5月31日を上半期、6月1日～11月30日を下半期とする。日本文学振興会による予備選考を経て、7月及び翌年1月に選考委員会を開き、その結果は、「文藝春秋」9月号及び3月号に場を借りて発表される。正賞は時計、副賞は100万円。選考委員は、小川洋子、奥泉光、川上弘美、島田雅彦、高樹のぶ子、堀江敏幸、宮本輝、山田詠美、吉田修一の各氏。

直木三十五賞 第161回 (令和元年度上半期) 令和元年7月中

第162回 (令和元年度下半期) 令和2年1月中

故直木三十五の文業を記念し、日本の大衆文芸に新生面をひらく有望な新人を選出し、記念品及び賞金を贈る。そして、芥川龍之介賞と共にその贈呈式及び披露を行う。

対象は12月1日～5月31日(上半期)及び6月1日～11月30日(下半期)に刊行された大衆文芸作品。日本文学振興会による予備選考を経て、7月及び翌年1月に選考委員会を開き、その結果は「オール讀物」9・10月合併号及び3・4月合併号に場を借りて発表される。正賞は時計、副賞は100万円。選考委員は、浅田次郎、伊集院静、北方謙三、桐野夏生、高村薫、林真理子、東野圭吾、宮城谷昌光、宮部みゆきの各氏。

\*芥川賞・直木賞における「人生に、文学を」キャンペーン

平成28年度に始まった同キャンペーンは、一定の成果を挙げたと考え、本年度をもって終了する。その費用として得た企業から協賛金はその活動をもってすべて費消するものとする。

4月20日「人生に、文学を」オープン講座 第15講 特別講義

「物語の魅力のそこにあるもの」 講師 上橋菜穂子氏 立教大学にて

6月23日(日) 19時～19時55分 TFM サンデースペシャル「人生に、文学を。」

ゲスト：川上未映子氏

6月中 「人生に、文学を」オープン講座 第16講 特別講義 講師場所未定

菊池 寛 賞 第67回 (令和元年度)

令和元年10月中

故菊池寛の日本文化の各方面に遺した功績を記念し、同氏が生前関係の深かった、文学、映画・演劇、新聞、放送、出版(雑誌を含む)及び広く文化活動一般に於いて、清新且つ創造的業績をあげた人、或いは団体を選出し、記念品及び賞金を贈る。そして、その贈呈式及び披露を行う。

日本文学振興会による予備選考を経て、10月に選考顧問会を開き、その結果は

「文藝春秋」12月号に場を借りて発表される。正賞は時計、副賞は100万円。

選考顧問は阿川佐和子、池上彰、保阪正康、養老孟司の各氏。